

佐世保市立祇園小学校

所在地 佐世保市祇園町 18 番 18 号

校長 松田 美穂

児童数 4 5 6 名

学級数 1 9 学級 (令和 5 年 5 月 1 日現在)



特色ある学校づくり対策事業の実践

校訓、学校教育目標、重点努力目標

校 訓

高い理想 清い心 熱い想い

教 育 目 標

学び合い、高め合い、心豊かでたくましく生きる児童の育成

めざす児童像

進んで学ぶ子 (知)
やさしい子 (徳)
元気な子 (体)

1 特色ある学校づくり対策事業の目的

地域の特色や学校規模・諸条件を勘案し、積極的に「P T A 及び地域との共創」「確かな学力」「豊かな心とたくましい体」の育成に邁進していく。

- (1) 心身ともに健康で、自ら考え判断し、豊かな心と確かな学力が身に付いた児童の育成を図る。
- (2) あたたく、ふれあいに満ちた楽しい学校づくりに邁進する。

2 実践内容と成果

【学力向上】 学びに向かう力、考え、表現する力を育てる

- (1) 学級経営の充実 (安心して失敗できる環境づくり)
 - ・特別活動により、自主性・協働性・自治力を育てた。
- (2) 学習指導の充実
 - ・ゴールを明確にした授業づくりに取り組んだ
 - ・目的意識と相手意識をもたせた発信力を育てる授業づくりに取り組んだ。

- ・一人一台端末の適切な活用による情報活用能力の育成を図った。
 - ・読書活動の充実→読書タイムや図書ボランティアによる読み語りの場を計画的に取り入れた。
 - ・英語力発信事業の推進→外部人材や機関との連携強化を図った。
- (3) 家庭との連携
- ・家庭学習の日安を提示し、家庭学習の習慣化を図った。
- (4) 課題と成果の見える化
- ・学力調査等の結果から児童の実態を分析し、確かな学力の定着を図った。

- 成果①安心して間違えることができる心理的安全性が確保された学級の中で、一人一人の児童が学びを深め、基礎学力の定着につなげることができた。
- ②一人一台端末の活用により、多様な学びの機会を生み出した。
 - ③図書ボランティアと連携・協働した読み語り活動により、児童の感性を醸成し、読書を楽しむ児童の育成につなげた。
 - ④サセボ・エレメンタリースクールや長崎国際大学、佐世保独楽本舗など、外部人材や外部機関との交流活動を通じて、グローバル人材育成、「英語発信力強化事業」を推進することができた。
 - ⑤各学年に応じた「家庭学習のてびき」を配布、周知し、家庭と連携した学習習慣の定着及び学習活動の活性化を図ることができた。
 - ⑥各種学力調査の実施後、結果の考察・分析を行い、学校全体の課題解決に向けて、授業改善を行い、年度の後半には学力を向上させることができた。

【心の教育と体づくり】心の教育とたくましい体づくりを充実させる

- (1) 道徳教育の充実
- ・地域の人材等の活用→地域の方と連携した体験活動
- (2) 全教育活動を通じた人権教育
- ・人権教育を重視した教育活動を実施する。
- (3) 生徒指導の充実
- ・気持ちのよい挨拶、言葉遣いの指導により、基本的な生活習慣を定着させる。
- (4) 安全・安心な教育環境の整備
- ・校舎内外ともに美しい学校をつくる。→清掃活動の充実を図る。
- (5) 養護教諭と連携した保健指導の充実
- ・早寝早起き朝ごはんなど、基本的な生活習慣を整える。

- 成果① P T A や地域の方と連携し、昔遊び体験やどんど焼き体験など、伝統行事や伝統文化に触れることを通して、豊かな心の醸成を図った。
- ② 地域の方やボランティアの方、企業等の協力を得て、豊かな心を育むための道徳の授業や人権教育に取り組み、実践意欲を高めた。
- ③ トイレクリーン強調週間や P T A と連携した清掃活動に取り組み、美しい学校を目指すことで、心を磨く教育の充実につなげた。
- ④ P T A 保健体育部と連携し、「元気アップカード」を用いて、朝食やメディア時間、睡眠時間等について各家庭で見つめ直す機会をもち、望ましい生活習慣の実現に向けて取り組むことができた。

【互いに磨き合い、支え合う教師を目指し、組織力を高める】チーム祇園による実践

- (1) 教師の資質向上
- ・ 指導力、コミュニケーション力を身に付ける研修・実践を充実させる。
- (2) 不祥事根絶に立ち向かう
- ・ 信頼関係の中にも厳しさをもった雰囲気づくりを図る。
- (3) 働きがいのある職場づくり
- ・ 帰属意識を高め、教師自身が自尊感情を高められるように、一人一人のよさが発揮できる教育活動を推進する。

- 成果① 外部講師を招聘し、服務規律の遵守、不祥事防止についての研修会を実施し、組織全体として不祥事根絶の意識を徹底した。
- ② 何でも話せる、風通しのよい職場環境づくりに取り組んだ。
- ③ 校務分掌の中のチームや各セクション毎にミーティングを行い、職員で知恵を出し合いながら、働き方改革につながる業務遂行にあたった。

【家庭・地域との連携を活性化する】学校教育の根幹、基盤づくり

- (1) 学校評価の公表、積極的な情報発信、異校種間連携、地域人材（関係機関）の活用
- ・ G T の招聘や体験活動を積極的に取り入れて異文化理解教育を推した。
 - ・ 日本の伝統文化（箏体験）を通して、日本人としてのアイデンティティに触れる時間を設け、日本と外国の互いの文化のよさを尊重する心を育てた。

- ・ 1年生…地域の方との昔遊び交流会、ALTと関わる授業実践。
- 2年生…保幼小連携による生活科「おもちゃランド」、町探検で地域の外国の方とのふれあい。
- 3年生…サセボ・エレメンタリースクールの3年生と日本の遊びを通しての交流、サセボ・エレメンタリースクールへの訪問、異文化交流。
- 4年生…させぼエコラボ講師による地球温暖化防止活動の講話、体験学習。環境・科学体験学習。日本の伝統文化を味わう箏体験。
- 5年生…新1年生を迎えるおもてなしパンフレットづくり。英語を用いた祇園小の魅力発信活動。日本の伝統文化を味わう箏体験。
- 6年生…ニュージーランドの中学生とのオンライン交流会、長崎国際大学の留学生とのプレゼン大会、イングリッシュ・スピーチコンテストへの参加。アントレプレナーシッププログラムへの参加。

- 成果①学校評価では特に地域から高い評価をいただいた。今後も積極的に情報発信に努め、家庭・地域と連携した取組を充実させていく。
- ②人と関わる豊かな体験や発信する場を確実に設定することで、子どもたちはより意欲的に学習に取り組むことができた。このことにより、グローバル人材育成「英語発信力強化事業」の研究推進につなげることができた。

【特別支援教育の充実】

(1) 個に応じた配慮・指導の充実

- ・特別支援コーディネーター、校内支援委員会等を軸として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等を交えたチーム祇園による対応の推進を図った。

- 成果①校内組織だけでなく、外部の専門機関と随時連携を図りながら対応した結果、専門的な知見を取り入れた早期の対応を行うことができた。

4 成果

- 学力調査で明らかになった各学年の課題を克服できた。特に、市、県、全国レベルで実施される調査では平均点を上回る成果を得ることができた。
- 児童が読書を楽しみながら、豊かな心を育むことができた。
- 命を大切にする気持ちを育む手立ての一つとして植物、野菜の栽培活動に取り組み、豊かな心の醸成を図ることができた。
- 体験活動の充実により、思考力・判断力・表現力の育成を図ることができた。グローバル人材育成「英語発信力強化事業」の研究推進により、多様性を尊重する児童の育成を図ることができた。
- 地域とともにある学校を目指し、PTA、保護者、地域、学校が連携し、共創することができた。

5 おわりに

本校周辺には、佐世保市中心の繁華街があり、また市立図書館・体育文化館等の公共施設もあり、教育環境に恵まれています。さらに、祇園小の校章にも描かれている佐世保独楽とも創立以来密接な関係があります。そのような伝統文化を受け継ぎながら、『祇園』の「ひと・こと・もの」を最大限に生かし、共創することで、未来をたくましく切り拓き、逞しく、そして他者と協働しながら幸せに生きていける児童の育成に努めてまいりました。今後も、『祇園』という豊かな環境に感謝しながら、特色ある学校づくりに邁進していく所存です。

参考資料



1年生：昔遊び体験



2年生：町探検



3年生：サセボ・エレメンタリースクール訪問



4年生：ふるさと環境・自然体験学習



5年生：5歳児との保幼小交流



6年生：ニュージーランドの中学生との
オンライン交流



6年生：アントレプレナーシップ教育プログラム体験